

【SRA Holdings】Special Mail (No.238) 2024 年 11 月

(株)SRA ホールディングス代表取締役社長の大熊です。

本日、2025 年 3 月期第 2 四半期決算を発表しました。併せて、「決算付属資料」、
「2024 年 10 月 月次売上高速報」も発表しました。今回の発表の要点は下記のとおりです。詳細は、発表資料をご覧ください。

<発表資料> <https://www.sra-hd.co.jp/>

〔2025 年 3 月期 第 2 四半期業績(連結)前年同期比〕

■売上高＝5.5%の増収

■収益＝「粗利益」、「営業利益」が増益、「経常利益」、「当期純利益」は、
前年の為替差益から為替差損に転じたため減益

◎売上高:238 億 49 百万円(5.5%増)

・開発事業(4.3%増):金融業向け及び製造業向けが増加

・運用・構築事業(8.4%増):製造業向け及び情報サービス業向けが増加

・販売事業(6.1%増):株式会社 AIT が増加

◎粗利益:61 億 81 百万円(7.0%増) 粗利益率:25.9%(前年同期 25.5%)

◎販売管理費:25 億 65 百万円(2.3%増)

◎営業利益:36 億 15 百万円(10.6%増) 営業利益率:15.2 %(前年同期 14.5%)

◎経常利益:31 億 42 百万円(31.8%減) 経常利益率:13.2 %(前年同期 20.4%)

◎四半期純利益:20 億 62 百万円(28.5 %減)

〔2024 年 10 月 月次売上高〕

(株)SRA＝単月・累計ともに前年比増加

(株)AIT＝単月・累計ともに前年比大幅増加

国内子会社＝単月・累計ともに前年比大幅増加

海外子会社＝単月で横ばい、累計で前年比減少

上記の通り、全体として下期についても堅調な滑り出し。

<発表資料> https://www.sra-hd.co.jp/ir/ir-news/index_2024.html

第 2 四半期の業績につきましては、開発事業、運用・構築事業、販売事業の全てのセグメントにおいて増加しました。また、既存事業の更なる生産性向上や単価改善等に努めた結果、粗利益率が向上し、本業の成果である営業利益も増加しました。

一方、前中間連結会計期間においては為替市場が大幅に円安になったことにより、主に外貨建資産に係る 1,235 百万円の為替差益を計上しましたが、当中間連結会計期間においては前連結会計年度末に比べ為替市場が円高になったため、為替差損 699 百万円を計上した結果、経常利益は 1,462 百万円減益の 3,142 百万円(同 31.8%減)に、また中間純利益は、2,062 百万円(同 28.5%減)となりました。

(ご参考) 2023 年 9 月末 1 米ドル 149.58 円(2023 年 3 月末比 16.05 円の円安)

2024 年 9 月末 1 米ドル 142.73 円(2024 年 3 月末比 8.68 円の円高)

売上高、売上総利益、営業利益につきましては増収増益となり、中間連結会計期間として過去最高額を更新しております。一方、経常利益ならびに中間純利益につきましては減少しておりますが、これは評価上の損益(未実現損益)である為替差損益の変動によるものであり、キャッシュの異動は伴いません。

当社におきましては、「配当性向 50%を目途に、安定的な高配当を目指す」との方針のもと、2022 年 10 月 18 日ニュースリリース「配当方針の見直しに関するお知らせ」の通り配当水準を検討することとしており、2023 年度の中間配当金は、当初計画通り 1 株当たり 80 円としました。なお、期末配当金は 90 円、年間配当金 170 円の計画です。

足元では、米中摩擦の継続、ウクライナ問題の長期化、中東情勢の緊迫化など地政学リスクが高まるなか、米国や欧州における金利水準の高止まりによる景気後退懸念や、中国における不動産不況の継続など、先行き不透明な状況が継続しています。一方、国内景気は、物価高騰の一方で雇用や所得環境の改善もあり、緩やかながら回復基調が続いています。かかる状況下、情報サービス産業においては、業務効率化やビジネスの改革等の投資需要は堅調に推移しています。

しかしながら、製造業の一部のお客様においては、既に中国の不況の影響を受けている会社や、足元で不透明感が増している自動車関連の会社など、今後のシステム投資への影響が懸念されるお客様も存在しております。加えて、米国大統領選挙においてトランプ氏の再選が確実になったことにより、先行きの不透明感は一層深まったものと認識しております。

このような認識のもと、今後の下振れリスクに備え、これまで以上にお客様の動向をしっかりと注視し、対応すべき課題には必要な打ち手を考え、それを迅速に行動に移せるよう、緊張感をもって取り組んで参ります。

引き続きグループ一丸となり、受注・売上の拡大を目指すと共に、更なる収益性向上にも努めてまいります。

皆様には引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。